



文化創造学部長
多元文化専攻 国際理解領域
榎田勝利教授

専門：国際交流、国際協力、国際ボランティア
1968年 南山大学外国語学部卒業
国際交流基金日米センターシニアコーディネーター
等を経て、現職。
愛・地球博ボランティアセンター理事長、
アジア車いす交流センター理事長などを務める。

自己表現と自己実現の 力を磨き、新しい文化の 担い手を養成する。

文化創造学部は2000年(平成12年)、短期大学の改組転換に伴い、コミュニケーション学部と共に
本学3、4番目の学部として発足。短期大学の文芸学科が表現文化専攻、英米語学科が多元文化専攻、
生活科学学科が環境文化専攻(※)へと発展、深化して現在に至ります。多様な自己表現、英語というツールを
使いこなせる新しい文化の担い手を目指して、現在は177人が在籍しています。
(※平成16年度の医療福祉学部設置に伴い、平成15年度で募集停止)

「文化創造」の名称を使った 全国初の学部

榎田学部長 学部名に文化創造の

名称を使ったのは、国内でも本学が初
めだと思っています。当初は何を学ぶの
かアピールするのがなかなか難しかっ
たのですが、最近は徐々に理解されて
きていると思います。まず各専攻の特
徴について、表現文化専攻から願い
します。

清水教授 創作のカリキュラムのある

大学は、以前は日本大学、近畿大学、
早稲田の文芸コースぐらいでしたが、
現在はどんどん増えてきています。そ
の中でも本学の表現文化専攻は、中
部地区で初の本格的なカリキュラムを
持った創作系の専攻です。他大学が
文章、演劇、映像と細分化されている
のに対し、本学は言語表現、視聴覚

表現、メディア表現の3領域を、幅広
く総合的に学べるようになっていま
す。また、実際にプロとして活躍してい
る指導陣が多くいるのも特徴です。日
本を代表する歌人の島田先生を始め、
指折りの人材が揃っています。

榎田学部長 多元文化専攻は、
大野教授 一番の特徴は、多元文化
だけで専任の教員が12人もいること
です。通常の学科や専攻だと、国立大
学でも6人程度しかいません。つまり
学生の選択肢が広く、少人数教育が
できるということです。今年からはプ
ロの通訳、翻訳者と国際交流の専門
家の2人が加わり、ゼミ数は14とな
りました。国際理解、言語文化、国際文
化の3領域があります。

榎田学部長 学生の皆さんが文化
創造学部を選んだ理由を教えてください

さい。

池淵さん 作家を目指しています。
蛭雪時代に淑徳の表現文化専攻では
小説を書くにあつたので、受験を決め
ました。

岡田さん 私は漫画家を目指してい
て、漫画専攻のある大学か専門学校
へ行こうかとも思いましたが、表現文
化専攻で総合的な表現方法が学べる
というのが魅力で、文創を選びました。
前田さん 私は英語を学びたかった
のですが、それだけでなく国際理解
や政治など将来に役立つ知識を幅広
く勉強できるのが魅力で多元文化専
攻を選びました。

谷口さん 「英語を学ぶ」のではなく、
「英語で学ぶ」授業体制と、少人数制
の授業が魅力でした。もともと英語
を使って海外の人と交流したいと思っ





表現文化専攻
左より、池淵健志さん(3年)、岡田祐加子さん(4年)

表現文化専攻主任 清水良典教授

専門：現代日本文学、文芸評論、
クリエイティブ・ライティング
1976年 立命館大学文学部文学科
日本文学専攻卒業



多元文化専攻主任 言語文化領域 大野清幸教授

専門：幼児の言語発達研究、
英語学、日英対照言語学
1984年 東京学芸大学大学院
教育学研究科英語教育専攻
英語学講座修了



多元文化専攻
左より、前田雅美さん(4年)、谷口晃将さん(4年)



文化創造学部

文化創造学科

表現文化専攻

- 言語表現
- 視聴覚表現
- メディア表現

詩歌、小説、アニメ、舞台芸術、広告等さまざまな表現世界を学び、多様な社会の中で力強く生きていくための表現能力や創作力を養います。

多元文化専攻

- 国際理解
- 言語文化
- 国際文化

世界の多様性をさまざまな次元から見つめます。英語力を徹底的にマスターすると共に、柔軟な感性と優れた国際感覚を身に付けます。

表現文化と多元文化の コラボレーションも

ていきましたが、いろいろ勉強するうちに、まず専門的な知識を身に付けてから国際交流や異文化交流をしたいと思います。というようになりました。

榎田学部長 文化創造学部に入ってから良かった点を教えてください。

岡田さん 友達と作品の講評ができることです。身近な人と専門的な話ができるのはいいですね。他大学に進んだ友達からは、同じ趣味の子がないという話をよく聞きます。それに表現について幅広く勉強できるので、入って正解だったと思っています。

池淵さん 高校までは理系だったのですが、大学で討論などをしていて、文系の人の考え方に新しい発見をすることがあります。

前田さん 愛知淑徳大学自体がそうなのかもしれませんが、多元文化はとてもチャンスを与える専攻だと思います。授業で紹介された本や新聞を読んだり、ボランティアに参加したり、実際に行動に移せることで自分の世界が広がったと思います。

谷口さん 海外で豊富な経験を積んだ先生の講義はとても刺激があります。それと僕は映画サークルに入っているのですが、表現文化専攻の学生と交流するようになって、絵や映像というのは国際交流に活用できるので、それではないかと気がきました。それで表現文化の先輩から1年間、シナリオや絵コンテなど映画作りについて教えてもらい、それを実際に生かした国際交流を行いました。文創の中で素晴らしい交流ができたと思います。

清水先生 まさにコラボレーションですね。

榎田学部長 いい交流ですね。以前、私のゼミ生が国際理解教育の教材で絵本を作る時、表現文化の先生に指導をいただいたことがあります。うまくリンクされた面白い試みですよ。

表現文化専攻——発信だけでなく受容、ストックも重要

榎田学部長 最近の学生の特徴は何ですか。また学生に望むことはありますか。

清水先生 創作の世界ではよく「総カラオケ化現象」と言われます。小説

を読んでいるのに書きたい、受け入れてほしいという発信型の学生が多くて受容する、ストックすることに情熱がない。そのため専攻としては、表現したいという欲求を伸ばしつつ、リサーチしたり、読んだり考えたりという受容する方に力点を置いています。入学時には単に書きたい、有名になりたいという発想だった学生が、次第に考え方が変化して成長していくのを見ると、教育者として幸せを感じます。

池淵さん 授業がきっかけで純文学を読むようになりました。最近書くよりも読む方を重視しています。

岡田さん 私もういろいろと読むことで情報が入ってくるようになって、自分の表現力が上がったことを実感しています。

榎田学部長 私は岡田さんには是非、東南アジアへ行ってほしいですね。タイにはドラえもん学会があつて、日本のアニメを研究しているんですよ。岡田さんの想像力とか創作意欲が変わってくるかもしれません。

清水先生 言葉は話せなくても絵が描けるから交流できますね。

榎田学部長 これもコラボですね。

大野教授 多元文化には海外で長期滞在した専任教員が多いのですが、外国で生活すると逆に日本のことを知らないといけないことに気付いたりします。是非、学生のうちに外国へ行って、いろいろなことに気付いてほしいですね。



表現文化専攻 3年(清水ゼミ)
池 淵 健 志 さん

卒業制作は未定です。
創作活動にプラスになるかと思い、大型自動二輪、大型特殊けん引の資格を取得。今後、フォークリフト運転士や危険物取扱者などの資格取得にも挑戦したいと思っています。長男のため実家を継ぐので、将来は副業として作家になればいいなと思います。



左より
表現文化専攻 清水良典教授
多元文化専攻 榎田勝利文化創造学部長
多元文化専攻 大野清幸教授



表現文化専攻 4年(鳥居ゼミ)
岡 田 祐 加 子 さん

卒業制作は長編漫画の自由制作で、現代人を少し皮肉った内容にする予定です。
プロの漫画家を目指して入学しましたが、文章、映像、広告メディアなど、さまざまな「表現」に触れ、「表現」についての考え方の幅が広がりました。もっと「表現」について学びたいので、大学院(文化創造研究科)への進学を希望しています。

非日常の世界に自分を置くことで、自分を発見したり 自分を変えることもできる。——榎田文化創造学部長

**多元文化専攻——自立、自律
した人間になつてほしい**

榎田学部長 それでは、多元文化専攻で学生に望むことは。

大野教授 今年4月の新入生のためのエンカウンターキャンプでも言ったことですが、自立、自律した人間になつてほしい。言い換えれば、自分の頭で考え、自ら行動することを習慣にしてほしいと思っています。そのためには自分の志とは何か、どんな人生計画を描くのかを考えることが大切で、自己利益だけを追求するのではなく、使命感を持つて世のため人のためになることができる人になつてほしいと思います。

谷口さん 僕が入学した時にも今のような話を伺ったのですが、当時は目標がなかったのが、大野先生の言葉が胸に突き刺さつたのを覚えてます。今は4年生となって自分なりの目標も持ち、新しいことにもチャレンジしたいと思うようになりました。

大野教授 気付くことはとても大切だと思います。私は精神的誕生と呼んでいますが、そこからが本当のスタートだと思っていますね。

前田さん 今のお話はとてもよく分かります。私の場合、特に就職活動をする中で、どんな職業を選ぶのか、

どういう視点で企業を見るのかなど、自分のコアな部分が多元で学んだことにすごく影響を受けていると思いました。

**10年20年続ければ
プロになれる**

榎田学部長 表現文化専攻の卒業生の進路は。

清水教授 作家や編集者を希望する学生が多いのですが、採用試験に合格すればなれるという仕事ではありません。プロの作家としてデビューした卒業生も数人いますが、自己実現する人数は限られています。

でも、私たちの考え方としては、卒業生全員がプロの表現者になる必要はなく、表現のための自分のノウハウを持つことが大事なのです。大学で身に付けた表現のツールを使って、生活や仕事の場で情報発信できる人材を送り出すことが重要だと思っています。

榎田学部長 多元文化専攻の卒業生は。

大野教授 卒業生の進路としては、航空会社、旅行代理店、物流会社、ホテルなど英語力を生かせる業種や、大学院へ進学する学生も多いですね。

榎田学部長 みなさんの進路は。
岡田さん 大学院への進学を希望し

ています。絵の上手な人はたくさんいるので、自分のウリになるものがほしいと思います。そのために文学的な知識を身に付けたいと思っています。

池淵さん 実家が代々長男の家で、家を支えていくために安定した収入があるので就職するつもりです。創作活動は副業としてやっていきたいです。
清水教授 たくましい社会人として経験を積んで、それを表現に生かしていけば、人には書けないものが書けると思います。

一つ言っておきたいのは、自己表現というのは天から授かったものではなく、自分の努力で作った結果、できるものだということです。ですから自己表現というのは自己創造でもあるんです。それから重要なことは続けることです。ほとんどの人はちよつとやって自分には才能がないとすぐにあきらめてしまいますが、10年20年岩にしがみつくようにして続けていけば、たいていプロになつています。

大野教授 面白いですね、私も同じことを言っています。10年続けたら、二つ三つのプロになれるつて。

榎田学部長 30歳というのが一つのめどですね。国際交流の分野では、たとえば卒業後に外国へ行って活躍し、帰国後にその分野の専門家になると30年ですよ。



多元文化専攻 4年(中郷ゼミ)
前田雅美さん

卒論のテーマ「コア理論の有効性～overとaboveの多義性」。
インターンシップは2年と3年の夏休みに、人材派遣会社、製造メーカーへ行きました。ボランティアにも積極的に参加しています。
就職先の食品メーカーではトップ営業を目指し、いずれは貿易部で発展途上国との貿易を行いたいですね。将来はその経験を生かし、中学の英語教師になりたいと思っています。

多元文化専攻 4年(榎田ゼミ)
谷口晃将さん

卒論のテーマ「フィリピンにおけるCODE-NGOの政府への提言活動についての一考察」。
草の根からの市民社会形成について調べたいと思い、NGO活動とアジアというキーワードで研究テーマを選びました。
米国NPOインターンシップのほか、タイ研修、愛知万博の車椅子バスケットボール大会のスタッフなど、ボランティアにも多数参加しています。



本当にやりたいことをやれる環境を自分で作ることが、
夢を実現させる第二步。
——清水教授

自分の頭で考え、自ら行動すること、
習慣にしてほしい。
——大野教授

大野教授 それも同じことを言っています。30まで突っ走れつて。今走らなかつたら、いつ走るんだと。
清水教授 本当にやりたいことをやれる環境を自分で作ることが、夢を実現させる第二步です。
榎田学部長 前田さんの卒業後は。
前田さん 私は食品メーカーの総合職に決まりました。食品を選んだのは、国際理解の授業で、世界には食べられない子供たちがいることを知って、世界の人々の食に関われる仕事に就きたいと思ったからです。でも教職課程も取ったので、将来は教師になって自分の経験を話したいですね。
谷口さん 僕は大学院へ進み、専門的な知識を得ながら英語の能力をもっと高めたいですね。その後、就職して30歳か40歳ぐらいには専門家になりたいと思っています。

榎田学部長 谷口君は将来、NPOを作りたいという希望を持っています。
谷口さん アメリカのNPOでのインターンシップに参加し、運よく米政府機関に派遣されました。そこで専門家と一か月間仕事をして刺激を受け、自分もこういう仕事をしたと思うようになりました。将来はプロフェッショナルなスキルを身に付けて、他の人ができないような特殊な職業に就きたいと思っています。
大野教授 補足をしますと、国際NPOインターンシップは榎田先生の人脈と実力があつてこそ実現したものです。他の全学でのプログラムも先生方の尽力ゆえに設定されたものが多くあります。
前田さん 私は学内の多元文化学会で委員長をしています。外部から講師を呼んだ時、顧問のブイ・チ・トルン先生の人脈がなければ呼べない方いました。

大きな視点の中で “個”を見ていく学部

榎田学部長 最後に、文化創造学部に関心がある人へのメッセージをお願いします。
清水教授 現在は若い人だけでなく幅広い世代の人が、自己実現や自分探しを模索しているところがあります。毎年、オープンキャンパスで専攻の説明をすると、「こういう学科だったから自分も行きかった」とおっしゃる保護者が少なくありません。創造に向かうカリキュラムはもとと求められていたのです。本学部ができて本当によかったと思います。現在7年目に入りましたが、今後ますます重要度が高まると思います。
大野教授 多元文化を希望する受験生に特にお願いしたいのは、大学案内のパンフレットに載っているゼミ内容一覧をよく読んでほしいということです。特徴がよく分かるところなので、この先生に学んでみたいということを考えて受験してほしいと思います。

榎田学部長 普段、私たちは足元ばかりを見て井の中の蛙になつていいるのではないかと思います。しかし非日常の世界に自分を置くことで、さまざまな出会いがあり、自分を発見したり自分を変えることもできます。文化創造学部はそんな理論と実践を通して、大きな視点の中で個を見ていく学部です。その意味で文創の卒業生が新しい日本の文化を創っていく人材になるのではないかと期待しています。